

①ディレクトフォース

私たちは初日の午前中に立派な国際会議場で笹川平和財団やディレクトフォースの方々から数々の貴重なお話をお聞きした。この会はまず、笹川平和財団の田中伸男氏による基調講演で始まった。『国際機関を目指す諸君に』という題のもと、国際エネルギー機関事務局長時代の経験を材にお話いただいた。

私が田中氏の講演の中で心に残っていることが二点ある。一つ目は石油などのエネルギーの市場を安定させたいと考える国際エネルギー機関と石油価格を上げ、利益を増やしたいとするOPECとの対立である。事務局長の立場として、OPECとうまくお付き合いをし、お互いに石油の将来を見通すため数々の努力をされたそうだ。多くのところで自分の発言をし、良い人間関係を築いていくことの大切さを感じた。二つ目はヨーロッパで集团的エネルギー安全保障と可能性実現が目指されていることだ。これはある国が災害などの理由で国内に電力が供給できなくなったときに周りの国々から電力を分け与えてもらうというものである。日本では国内ですら50ヘルツと60ヘルツで周波数が異なり、電力の共有化が成されていないのに、ヨーロッパではここまで考えが進んでいるのかと驚いた。またソフトバンクの社長である孫氏はアジアでも電力において、助け合いを行おうと唱えている。孫氏の先見の明に驚くとともに中国やロシア、韓国などの周辺国と良好関係を築くことの重要性も感じた。自分の知らない世界を教えていただき、非常に新鮮な気持ちになった。

次に二つの組織の会員となっている四人の方々には海外での経験などについて深く教わった。一人目は三菱信託銀行に入社し、ニューヨーク、ロンドン、チューリッヒ、ロサンゼルスなどに駐在された石川氏だ。彼はディスカッションの中で何度も私たちに「よく勉強しなさい。」とおっしゃっていた。外国には私たちとは異なる文化、人種、宗教を持った人がたくさんいる。そのような人々とともに仕事をする上で彼らのことを知ることが必要なのだそうだ。であるから、日頃の学習に身を入れ、基礎教養を高めなければならないだろう。また彼はグローバル社会を生きていく上で、他の人と喋れるコミュニケーション力、時代の流れ（流行）を読む力、自分の中で明確な夢を持ち、それを大切にすることの三つが大切だともおっしゃっていた。

二人目は、笹川平和財団で造船関連の調査研究、海洋管理、北極海、海洋教育、国際協力のプロジェクト担当をされている酒井氏だ。私は彼の話を聞いて改めて日頃の勉強の大切さを感じた。彼は大学を卒業するまで「〇〇をしたい」という明確な夢がなかったそうだ。しかし、ヨットとの出会いによって、「海洋関係の仕事をしたい」という夢ができたそうだ。あまり好きではない生物や地理を熱心に勉強していたおかげで今の仕事につけたそうだ。いつ自分の夢が変わるか分からない。そのときに学力が足りず、その夢を諦めることがないように日頃の勉強に身を入れていきたい。

三人目は三井物産（株）シニア、プロジェクト・マネージャーとして世界を飛び回った越川氏である。彼は「国際化は大きなチームワーク」という題でお話いただいた。チームを運営していく上で重要なことは自分の中でしっかりと意志を持って発言すること、また相手の意見をしっかりと受け取ることである。それらを外国人と行うため、もちろん高い英語表現能力が必要になってくる。そのような国際社会に出ていく上での心構えや必要となってくる力についてお話いただいた。

四人目はNGOグループを立ち上げ、移民・難民コミュニティーの社会統合・生活支援活動を

担当されている林氏である。彼女の話の中で心に残っていることは、「自国の平和だけでなく世界全体の平和を考える」ということである。今、世界で起きている紛争や戦争の原因の大部分は自分の所属する組織の利益や平和を求め、対立することだ。そこで考え方を換え、世界全体の平和について考えたら紛争や戦争はなくなるのではないか、というお話しだった。

この四人の方々のお話は日本の外の世界を知らない私たちにとって新鮮であり、興味深かった。将来自分も海外に行ってみたいと思えるようになった。

②企業訪問

私たちは初日の午後にコニカミノルタという企業の日野研究所へ行った。将来、エンジニアになりたいと考えている私にとって、非常に刺激になった。コニカミノルタは1873年に創設したコニカと1928年に創設したミノルタが合併してできた企業である。「新しい価値の創造」という経営理念のもと、コニカミノルタにしかできない技術開発を行っている。海外へも進出し、世界45ヶ国に拠点を広げている。また特許の数は日本企業の中で16位、売上高研究開発割合は7.4%であり、研究開発に力を入れている。コニカミノルタの技術は主に四種類に分けることができる。画像処理や作像プロセスなどが含まれる画像分野。精密成形や表面加工などが含まれる微細加工分野。光学設計や光計測などが含まれる光学分野。有機材料・粒子などが含まれる材料分野の四種類である。どの分野も相互に関係しあいながら一つの製品を作っている。今回は製品開発に携わっていた方にお話しをうかがい、技術者としての必要なことを学んできた。技術者に最も求められることは自分の担当以外の部分を理解することなのだそうだ。一つの製品にはさまざまな分野の技術が結集されていて、お互いに影響しあっている。だから自分の担当する部品だけでなく他の部品のことも知らなければ、全体像をイメージすることができない。そのため技術者には幅広い知識が求められる。

実際に最先端の研究に携わっていた方から話をいただける貴重な体験だった。自分の夢がより明確になった気がした。

③OBOG との座談会

初日の夜に私たちは東京の大学に進学されたOB・OGの方々と座談会をした。その座談会で私の心に残ったことが三つある。一つ目は東京大学航空宇宙工学科へ進学した先輩の方のお話しだ。

—この地球上には人間が足を踏み入れたことがない地域はとても少ないんだよ。どんな小さな島であったり、ジャングルの奥地でも誰かしらは足を踏み入れているだろう。僕は人類がまだ足を踏み入っていない地へ行ってみたいと思って、宇宙工学科に入ったんだよ。宇宙は地球よりもはるかに大きくてロマンがあるからね。—

自分の夢をしっかり持ち、私たち後輩に語ってくれる姿は非常にかっこよかった。私自身もこの先輩のように人類が未踏の地とまでは言わないが、自分がまだ足を踏み入れたことがない世界に積極的に入っていきたいと思う。そのためにもこの高校での三年間は日本の外の世界を知るための道具となる英語、自分の内面的な世界を広げてくれる読書に力を入れていきたいと思っている。二つ目は「偏差値・難易度が高い」という理由で進学先を決めない方がよいということだ。

これは東京医科歯科大学へ進学された先輩のお話しに出てきた言葉だ。彼はもともと一番難しいという理由で東京大学を目指していたらしい。しかし、多くの大学を調べていくうちに、東京医科歯科大学の方が一人の生徒にかけるお金の金額が高かったり、付属病院に多くの人に来て、学生に与えられる治療の機会が多かったりすることが分かったそうだ。これは私自身にも当てはまることである。私も以前まではなんとなく「東北大学」という志望があった。しかし東北大学へ行って何をしたいのか、自分の進みたい分野の第一人者がいるのかなど深く考えていなかった。この話を聞いて改めて大学・学部を志望する理由が大切なのだと分かった。三つ目はチャンスは自分から掴みに行くということだ。この話をされた先輩自身、大学四年生のときにチャンスを見つけ、企業を立ち上げたいという夢を実現し、大学を中退する予定らしい。私たちを取り巻く環境には多くのチャンスが転がっているが、それを掴むかは、自分で決まる。まずそのチャンスをしっかり目で捉え、確実に掴むことが大切なのだろう。OBOGのお話しはどれもためになるものばかりだった。今後の高校生活や大学受験などに生かしていきたい。